



構造物のてっぺんです。クレーンでバケツのようなものが吊られています。これには構造物の下の部屋で掘削された土砂が入っています。



構造物内部。足場を外れば、トンネルそのものです。

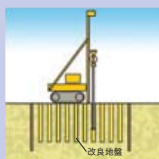


左の写真は10月15日撮影。あとわずかで高速道路部分が沈下します。

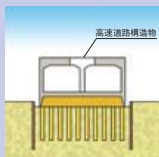


現場 | 5 美しいだけじゃない 外環は、最先端技術の粋の結集

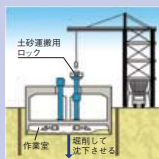
市川市国分6丁目に現れた、巨大な構造物。これは外環の高速道路となる部分そのものです。現在は地上にその姿が見えますが、なんとこの構造物が日々少しずつ、地中に埋まっているのです。これはニューマチックケーソン工法で、構造物の下部の作業室に圧縮空気を送り、地下水の浸入を防ぎます。そして、作業室で掘削をし、土砂はクレーンによって吊り上げられ、排出されます。高速道路そのものが埋まってくるとは、なんとも大胆な発想ですが、これができるのは最先端の技術があってこそ。現在行われている工事は、この工法が外環で適用される場合にどのような課題があるのかを確かめるための試験工事で、工事完成時には構造物が完全に地中に埋まります。



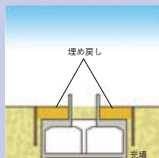
1 地盤改良工
土の中に杭を造成することによって地盤を強くします。



2 躯体構築工
地上に高速道路の構造物をつくります。



3 ニューマチックケーソン沈下掘削工
ニューマチックケーソン工法で構造物を所定の位置まで沈下させます。



4 中詰コンクリート工、埋め戻し工
作業室をコンクリートで充填し、構造物の上部を埋め戻します。

